

担当教員授業題目	野外実習（生物科学）I（富山大学）				担当教員	前川清人／木下豪太	
英文授業名	Field Trip I				副担当教員		
単位数	1	講義期間	前期その他	曜日・時限	6～7月中の 土日および8 月下旬～9月 上旬または10 月中の1日	対象学年	2
授業形態	実習	備考	2名まで受け入れ可能。天候等により予定が変更となる可能性があるため、実施の直前まで担当教員と連絡をとることができる場合のみ受け入れる。				
<p>(1) 授業のねらい</p> <p>身近な自然、特に昆虫類を中心とする動物群集を対象として、生物の形態や生態の多様性に触れ、生物間の系統関係を知ることの重要性を理解することを目指す。</p> <p>(2) 授業の概要</p> <p>前期期間中の土曜日に、富山市内の丘陵地（呉羽山丘陵地や自然観察実習センター周辺の低地林を予定）で昆虫を採集する。翌日に標本を整理し、展脚板や展翅台を用いて乾燥させる。約3週間以上後に理学部学生実習室で同定し、乾燥標本にラベルをつけて標本箱を完成させる。どのような場所で何が採集されたのかをまとめると共に、分類学上の位置、形態的な特徴や生態的な知見について、各自が調べてレポートを作成する。</p> <p>(3) 授業計画</p> <p>3-1) 事前学習と実習参加準備</p> <p>実習前には配布資料等を用いて、分類と系統の基礎を理解すると共に、採集する昆虫類に関する情報を収集する。</p>				<p>3-2) 野外実習（6月上旬または7月中下旬の土日（2日間））</p> <p>富山市内の丘陵域での探索（実施可能な場合は夜間のライトトラップ）により、昆虫を採集する。採集した昆虫は、採集場所の状況等を把握し、基本的に固定して持ち帰る（第1日目）。理学部学生実習室にて、標本を整理し、展脚板や展翅台を用いて乾燥させる（第2日目）。</p> <p>3-3) 同定と標本の作製（8月下旬～9月上旬または10月中の1日間）</p> <p>採集した昆虫類を同定し、ラベルをつけて標本箱を完成させる。</p> <p>3-4) 課題レポートの提出</p> <p>9月下旬までにレポートをまとめて提出する。</p> <p>(4) 成績評価の方法</p> <p>実習に取り組む態度及び提出されたレポートによって評価する（評価点90点以上をS、80-89点をA、70-79点をB、60-69点をC、59点以下を不可）。</p> <p>(5) 履修上の注意</p> <p>採集用具の準備は不要であるが、山歩きに適した服装は必要である。本実習は、富山大学理学部理学科生物科学プログラム2年生の履修生と合同で実施する。また、教育研究災害傷害保険の加入を必須とする。</p> <p>(6) 質問、相談への対応</p> <p>電話及び電子メールにて対応する。 前川&lt;kmaekawa@sci.u-toyama.ac.jp&gt;, 木下&lt;gkino@sci.u-toyama.ac.jp&gt;</p>			
【教科書】なし		【参考書】実習テキストを配布する。					

